

たかおか う せ かい て き か が く しゃ じ つ ぎ ょう か
高岡で生まれた世界的科学者・実業家
たか みね じ ょう き ち は か せ
高峰讓吉博士

タカチアスターゼの発見や、アドレナリンの結晶化など
世界的な発明をし、現代でも外科手術で用いる薬を
製造販売して成功した実業家です。日本とアメリカ
の友好に力を尽くしました。



たかみねじょうきちしやうかい
高峰讓吉顕彰会蔵
たかおか し り つ は く ぶ つ か ん て い ぎ ょう
高岡市立博物館提供

市内には、高峰博士ゆかりのスポットがあるよ



たかみねこうえん はかせ せい か あと
高峰公園(博士の生家跡)



たかみねき ねんかん
たかしん高峰記念館



スタンプが押せる時間/9:00~17:00

じ ょう き ち は か せ
讓吉博士スポットスタンプ

Episode
博士

たかおかしょうきち
高岡商工ビル
松楓殿再現展示

スタンプカード

Episode
1

たかおかしりつはくぶつかん
高岡市立博物館

Episode
2

たかおかしふしき
高岡市伏木
コミュニティセンター

Episode
3

たかおかみくるまやまいかん
高岡御車山会館

Episode
4

やまちょう
山町ヴァレー

Episode
5

といでえき
JR戸出駅

たかおか さい ほう けん
高岡再発見プログラム

たかおか
解体新書
明治・大正編

いいところ
再発見!
さいはつけん

きくじ

- Episode1 明治維新とたかおか 3
Episode2 たかおか近代化のはじまり 5
Episode3 商人のまち高岡 7
Episode4 地場産業の近代化 9
Episode5 北陸初の臨港工業地帯 11
市内マップ 13

たかおか解体新書って？

古代、伏木に越中国府が置かれ、江戸時代のはじめには高岡城と城下町がつくられるなど、高岡市は富山県の歴史の中で大事な舞台となりました。市内には瑞龍寺や勝興寺などの日本を代表する建物や歴史的町並みが残されています。さらに、雨晴海岸など1,300年前に詠まれた景色を今も見る事ができます。

たくさんの顔をもつ「たかおか」のいろいろな面を知ることで「たかおか」のよさを再発見することが目的です。

知っていそうで知らなかった「たかおか」がまわりの人にちょっと話したくなる「たかおか」になるといいですね。



たかおか歴史年表



つかいかた

次のページからのエピソードやスタンプ箇所となっている施設での情報を参考にして「たかおか」のことをもっと知ろう

- 1 見てみよう スタンプ箇所などで展示してあるものをよく観察しよう
- 2 聞いてみよう まわりの人や博物館などで聞いてみよう
- 3 ふれてみよう 見て、調べて知った情報から当時のようすをイメージしてみよう

やくそく

- 熱中症やけがに気をつけよう
- 車に気をつけよう
- 施設の人や町の人にすすんであいさつをしよう

もっと
りたい人は
今回参考にした
資料など

- 『新時代を拓く
〜藤井能三の近代遠望〜』
- 『たかおかー歴史との出会いー』
- 『とやま近代化ものがたり』
- 『富山県史』
- 『高岡市史』
- 『戸出町史』
- 『藤井能三伝』
- 北陸銀行『創業百年史』

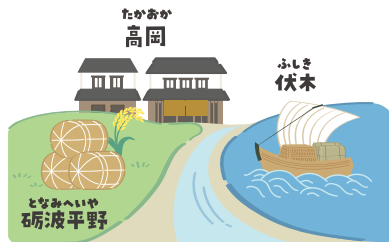
今回の対象となる期間

Episode
1

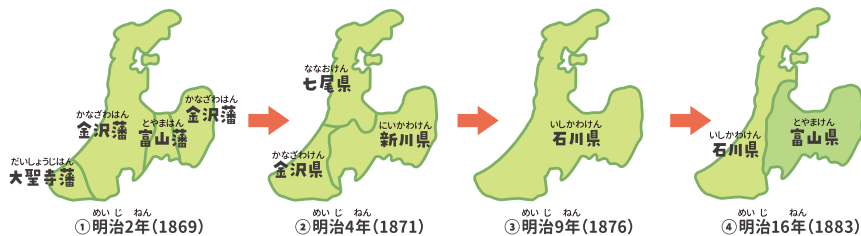
明治維新とたかおか

たかおか こじょうこうえん むかし いま くら
高岡古城公園の昔と今を比べてみよう

- 加賀藩の範囲の中央に位置し、米どころの砺波平野と伏木の港を結ぶ高岡は、人・モノが集まる商工業のまちとして藩の経済を支えていました。



- 明治維新が起きると、高岡の町の所属が加賀藩から金沢藩、七尾県、新川県、石川県となるなど、社会の仕組みが目まぐるしく変わりました。町民のまち高岡は、武士のまちである金沢など多くの城下町ほど大きな影響を受けませんでした。



- このような中で明治3年(1870)、加賀藩によって残されていた高岡城の敷地が分けて売り渡され、田畑にされることになりました。



- 当時の市長にあたる服部嘉十郎らの運動によって明治8年(1875)「高岡公園」に指定され、土塁(土を盛ってつくった壁)やお堀など高岡城の形が今に残されることになりました。

スタンプポイント

高岡市立博物館

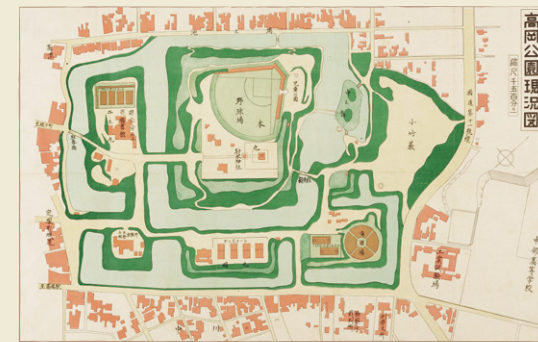
近代ゾーンでは高岡古城公園の歴史やたかおかの近代化について展示されています。また、林忠正や高峰譲吉などふるさとの人も紹介されています。

スタンプが押せる時間／9:00～17:00
定休日／月曜(祝日の場合は翌平日)



見てみよう

高岡古城公園の昔の様子



昭和23～25年頃の公園の地図(高岡市立博物館蔵)

博物館では、高岡城や高岡公園の絵図や地図、昔の様子を伝える写真を見ることができます。現在の高岡古城公園と同じところ、違うところに注目してみよう。



動物園や相模場も昔は公園内の別の場所にあったんだよ。

利長くん寛書 服部 嘉十郎

高岡で一番立派な町人の家に生まれ、区長(現在の市長)として高岡のために頑張った人です。嘉十郎らが県へ提出した公園指定を願う文書には、花や木を植えることや橋をかけること、博物館の設置など、現在の公園の姿のような計画が書かれています。

中の島にある嘉十郎をしのぶ石碑



たかおか近代化のはじまり

能三が港の発展に尽くした理由を考えてみよう

越中の産業は加賀藩の時代から農業、特に米づくりが中心でした。米は北前船によって北海道や大阪で売られていましたが、冬は日本海が危険で春まで運航できませんでした。

伏木を代表する廻船問屋(北前船で品物を運び、売り買いする商売)の藤井能三は、皆が豊かになるために、季節に左右されない汽船(蒸気力で動く船)が入れる近代的な港の整備を目指しました。



能三は、当時日本最大の汽船会社三菱に、伏木への定期航路を依頼します。三菱から条件に出された西洋式灯台の設置には大変なお金がかかりましたが、能三は自分の財産を使って建てることにし、明治8年(1875)、加賀・能登・越中で初めて伏木に汽船が運航しました。



明治10年(1877)に完成した西洋式灯台

汽船が運航するようになったことで、伏木港は大型船に対応した近代的な港に向けて大きく前進し、伏木だけでなく越中(富山県)の発展に影響を与えました。

スタンプポイント

高岡市伏木コミュニティセンター

支所や図書館があり、伏木地区の地域活動の拠点となる施設です。伏木港のうつりかわりの写真が掲示してあるほか、伏木図書館には藤井能三の家に伝わる文書が保管されています。

スタンプを押せる時間/8:30~22:00
定休日/なし



見てみよう

伏木気象資料館

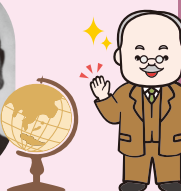


船の運航のため、能三は西洋式灯台(伏木燈明台)の一室を使って海の天気を観測する私立の測候所を作りました。その後、二度の移転を経て明治42年(1909)に現在地になりました。藤井能三の取り組みなど伏木測候所の歴史が展示されています。

読書博士 読書

富山近代化の偉人 藤井能三

航路を独り占めして高い運賃を取る三菱に対抗して、能三は船会社を作って三菱と競争するが、敗れて会社も倒産する。さらに不景気で能三は家まで失ってしまう。しかし、能三はその後鉄道敷設や港の整備、庄川の改修、ロシアとの航路の開拓など、伏木港の発展に尽くし、富山県の近代化に大きな影響を与えたのだ。



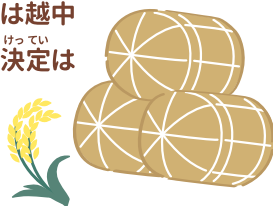
地域のために西洋の知識を学ぶ小学校も自分のお金で作っている。

Episode
3

商人のまち高岡

高岡が最初の市になれた理由を考えてみよう

明治時代も越中の産業は米が中心でした。高岡は越中の米流通の中心地でしたが、県内の米の値段の決定は取引所がある金沢で行われたため、藤井能三や高岡商人たちは不満でした。



明治16年(1883)、富山県が石川県から分県すると、ようやく米取引を行う高岡米商会所(のちの米穀取引所)を開くことができました。明治28年(1895)には全国114か所のうち8番目の売質量となるなど、高岡は全国有数の取引所でした。



高岡米穀取引所

明治政府は産業発展のため、お金や銀行の制度も整備しました。旧加賀藩のお殿さまと能三たちは明治10年(1877)に第十二国立銀行を設立しますが、世間の銀行への理解が進まず経営は伸び悩みました。

銀行の理解が浸透してきた明治22年(1889)、高岡の有力商人たちが高岡銀行を作ります。これに對抗して高岡市内の有力者が集まり明治28年(1895)高岡共立銀行を作りました。2つの銀行は競い合い高岡の経済発展に影響を与えました。



高岡銀行本店



スタンプポイント

高岡御車山会館

赤レンガの銀行の正面に位置しています。高岡の有力者の財力、文化的な知識、工芸技術などを集めて作られた高岡御車山の实物をはじめ、高岡御車山祭の歴史などが展示されています。

スタンプが押せる時間/9:00~16:30
定休日/火曜(祝日の場合は翌平日)



見てみよう

赤レンガの銀行



洋風の建物として改築された旧高岡共立銀行本店です(大正3年(1914)完成)。その後、高岡銀行と高岡共立銀行は合併して高岡銀行の本店となりました。県内に唯一残されている本格的な洋風建築として貴重な建物です。

県庁は富山、商業は高岡

富山県が分県するときに、高岡と富山の有力者で「富山に県庁を置いて県を治める場所とし、商業の事は高岡に任せてそれぞれ発展しよう」と約束したとして高岡に念願の米取引所を設置した。明治22年(1889)4月、市町村の制度ができると、高岡は全国31の最初の市の1つとなる。他の30市は江戸時代の城下町か堺・横浜・長崎・神戸などの港町であり、高岡は珍しい存在だった。



Episode
4

地場産業の近代化

山町筋を歩いて当時の高岡商人の力を感じてみよう

- 明治に入って、海外から安い綿や綿布が大量に輸入され、国内でも紡績(綿から糸をつむぐ)工場が作られるようになると、従来の綿織物が売れなくなり、綿・綿織物取引の中心であった高岡も大きく影響を受けました。

- そこで高岡の商人は明治26年(1893)、日本海側最初の近代的な紡績工場(高岡紡績)を整備しました。県内の工業が、織物や生糸、銅器、菅笠など手作業で行うものが中心だった中で1万錘の糸を紡ぐ装置を備えた工場は人々を驚かせました。同年、戸出町でも織物工場(戸出物産)が作れるなど、工業の近代化が進みました。

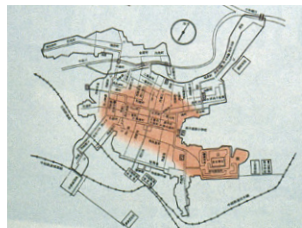


たかおかほうせきこうめいがいしゃ
高岡紡績合名会社

- 高岡は、県に働きかけて鋳物や漆器を学ぶと、やまけんりつこうけいがかんしりつかんい富山県立工芸学校を設置し、市で市立簡易商業学校を設置するなど、近代化に対応した商人や職人の育成を図りました。



- 明治33年(1900)、高岡の市街地の6割を焼く火災が起き、役所や寺院をはじめ民家3,589軒が全焼するなど大きな被害が出たため、商工業が回復するのに数年を要しました。



火災の被害範囲

スタンプポイント

山町ヴァレー

元は大正4年(1915)に建てられた文具屋さんの建物で、昭和に入って土蔵造りから洋風3階建てに改築されました。蔵を活用した飲食店や工芸品のお店などが並んでいます。

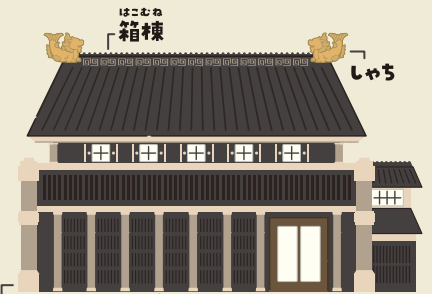
スタンプを押せる時間/10:00~16:30
定休日/年末年始(12月29日~1月3日)



見てみよう

明治の大商人のまち 山町筋

大火後、山町筋など市街地は防火構造の土蔵造りが義務付けられましたが、実際に建築できたのは大商人が中心でした。黒く塗られた壁をはじめ洋風が混じった重々しい外観と反対に、内部は優雅な和風のつくりです。建物ごとに鬼瓦の上の鯨や箱棟の模様に違いがあるなど当時の高岡商人の美意識が見られるよ、注目してみよう。



石柱・防火壁
せきちゅう ぼうかへき

鉄柱
てつちゅう

昔の高岡は綿取引の拠点

江戸時代、高岡町には綿の市場が置かれました。関西から仕入れた綿を、魚津や黒部などの新川地域に送って木綿に加工し、再び高岡に集め、一部を色で染めて関西に売りました。文政7年(1824)に加賀藩内の綿販売の独占を許されたことで綿取引が集中し、高岡町の経済は大きく発展しました。

米と綿は高岡の町を支える重要な品物だったんだ



Episode
5

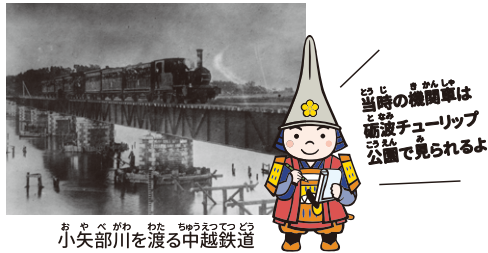
北陸初の臨港工業地帯

伏木に臨港工業地帯ができた理由を考えてみよう

明治30年(1897)、砺波郡と高岡の町の有力者は、川船より優れた輸送手段として砺波平野の町と市場のある高岡を結ぶ中越鉄道(現在のJR城端線)を建設しました。



翌年中越鉄道は、敦賀(福井県)―高岡間が開通した国営の北陸鉄道(現在のあいの風とやま鉄道)と連絡し、明治33年(1900)には高岡―伏木間(現在のJR氷見線)が開通して市場と港が鉄道で結ばれました。



河口にある伏木港は、水深が浅いため大きな船が入れず、人や荷物を小舟で運ぶ必要がありました。明治32年(1899)に開港場(外国と貿易可能な港)指定を受け、翌年から国の事業として、庄川改修、築港工事が行われ、大正元年(1912)に完成しました。

鉄道の便がよく、大型汽船が横付けできる近代的な港に整備された伏木港の両岸には、明治の終わりから大正にかけて化学肥料などの工場が次々と建ち、重化学工業地帯が作られました。



築港後の伏木港

スタンプポイント

JR戸出駅

戸出停車場として明治29年(1896)に完成し、当時駅の隣にあった機関庫で機関車が組み立てられました。駅舎は増築されていますが、開業当時の木造の骨組みが残されています。

スタンプを押せる時間/終日
定休日/なし



見てみよう

伏木港とともに発展した吉久地区

加賀藩の米蔵が置かれた吉久は、伏木築港によって伏木橋が架かり、港の拡張に伴って大正7年(1918)に吉久駅ができて賑わいました。JR貨物新湊線をはじめ現在も線路が多く残り、当時の貨物量を感じられます。



吉久駅跡



読古博士読書

庄川改修工事

当時は小矢部川と庄川が合流して河口に土砂が溜まる上、庄川はたびたび洪水を起こし、安全のためにも工事が必要だった。庄川の川幅を広げ、新湊へ新しい河道を作って小矢部川から切り離した。こうして現在のような庄川と小矢部川になったのだ。



